

漁海況年報

平成22年1月1日～12月31日

【黒潮流路】

図1に黒潮流型の区分を、表1に近年の流型の経過を示した。また、図2には平成22年1～12月における月別の前半、後半の代表的な黒潮流路を示した。

平成22年の黒潮流路は全般に遠州灘沖33°Nを東進するN型基調で経過したが、小蛇行の通過に伴い1月にはD型、2月、4～5月、7～8月、11月及び12月にはB、C型となり離接岸変動が大きかった。このうち1月前半、4月前半～5月前半、12月前半には比較的明瞭な蛇行を示し、蛇行の南端は32.5°N以南まで達した。4月前半には小蛇行後伊豆半島沖を34°N以北まで北上し、また5月後半から6月前半には伊豆半島沖で強い接岸変動を示し、これらの影響により両時期に遠州灘沖で黒潮内側反流が形成された。12月前半の小蛇行は、後半には伊豆諸島海域で南北に拡大後、切離したため、黒潮は短期間でB型からC型を経てN型へと移行した。

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)

静岡県水産技術研究所伊豆分場
(電話 0558-22-0835)

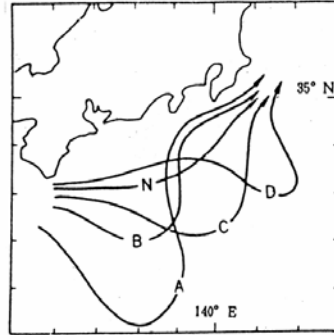


図1 黒潮流型の区分
(海上保安庁海洋情報部より)

表1 黒潮流型一覧表

(資料：海洋速報(海上保安庁)・関東・東海海況速報)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月															
平成元年	B	C	C	C	DW	C	N	N	N	N	N	N	DN	B	A	A	A										
2年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	AC	C	C	CD									
3年	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	D	NN	N	N	N									
4年	C	DC	N	N	N	N	N	BD	C	DN	N	N	N	D	N	N	N	NC	C	N	N	N					
5年	N	N	N	N	N	B	B	BC	C	C	C	C	C	C	C	N	B	C	D	N	N	N	N				
6年	B	C	D	N	N	N	C	C	NN	N	N	N	B	BN	N	N	N	N	N	N	N	N	N				
7年	NN	N	N	N	N	N	B	B	B	C	C	C	D	D	NN	N	N	N	N	N	N	N	BC	C	CD		
8年	C	D	D	D	C	C	C	CW	D	ND	N	D	C	CNC	D	W	N	C	D	N	N	N	B	C	D		
9年	N	D	D	D	C	C	C	CW	D	ND	N	D	C	CNC	D	W	N	C	D	N	N	N	B	C	D		
10年	D	C	N	N	D	N	NW	N	N	N	NB	B	B	C	C	C	C	N	N	BN	B	B	B	C	C		
11年	CW	W	WB	C	C	C	C	C	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	BN	B	B	B	B	C	C	
12年	C	C	CW	W	WB	B	BC	CW	WB	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	CW	CW	CB	B	
13年	C	C	C	C	CD	C	C	C	WN	B	C	C	C	C	C	C	C	WB	BC	C	C	CD	DW	WD	DN	C	
14年	N	N	N	N	N	N	N	NB	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	
15年	N	N	N	N	N	N	D	NW	WN	B	BC	D	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	
16年	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	NA	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
17年	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	D	DN	N	N	N
18年	N	N	N	NB	C	CWC	CN	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	BN	C	NC	C	D	DN	N	N
19年	N	BC	D	B	B	C	C	C	C	C	C	C	N	B	C	C	C	C	C	W	N	C	C	C	C	D	
20年	C	C	N	N	N	N	N	B	B	C	C	C	C	C	C	C	C	CD	C	C	C	CD	C	C	C	C	C
21年	C	C	C	C	C	C	CW	WB	C	C	C	C	C	C	C	C	C	CW	WC	C	C	CN	NB	BN	BC	C	C
22年	D	DN	N	BC	N	NW	WB	C	CD	D	N	N	NB	B	BN	N	N	N	N	N	N	N	BC	N	BC	CN	

*静岡県水産技術研究所一部改変

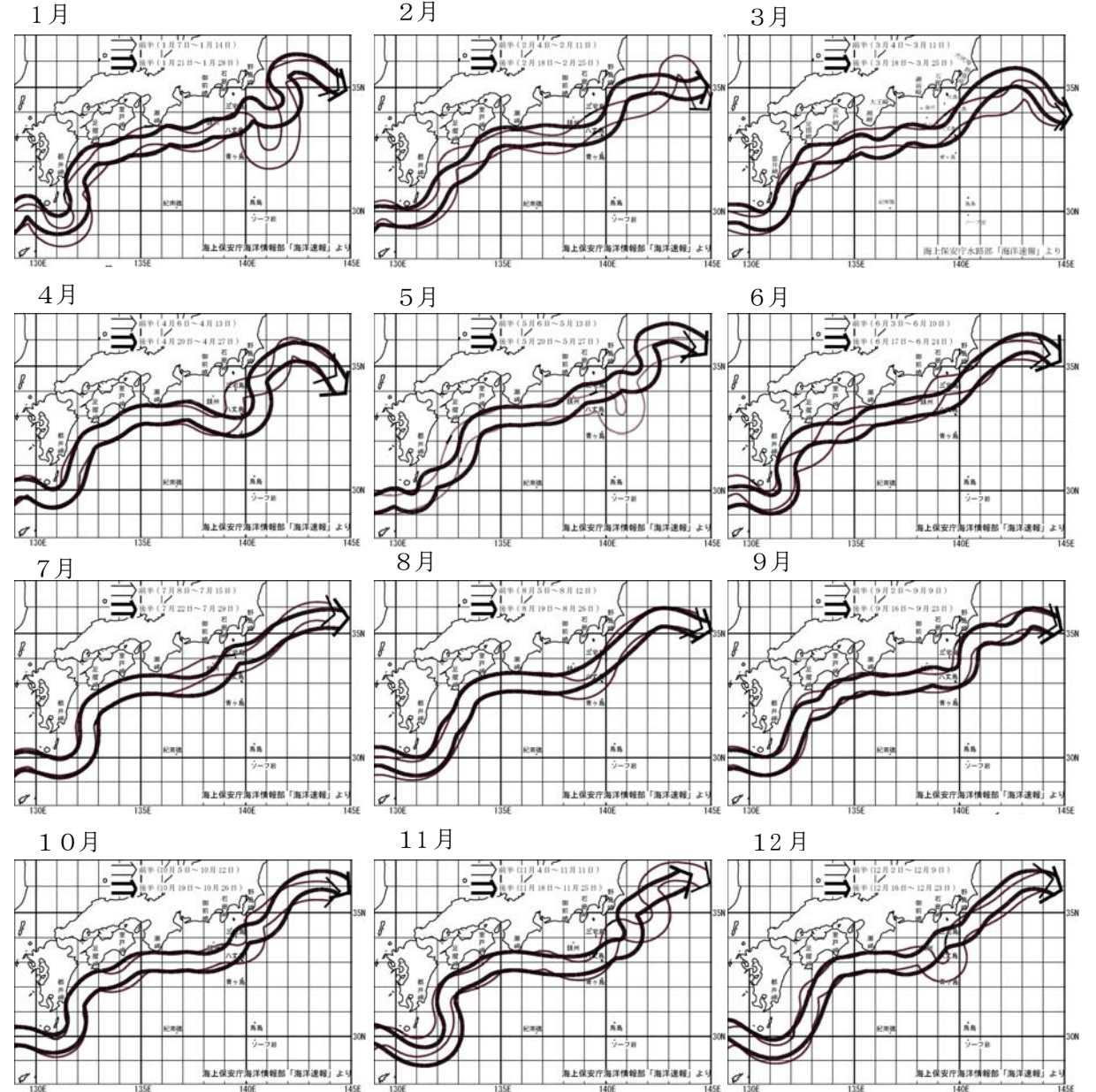


図2 黒潮流軸の変動(海上保安庁海洋情報部「海洋速報」より) ⇨前半 ⇨後半

【県下沿岸域】

図3に平成22年1～12月の沿岸水温の変化を旬別に示した。沿岸水温は4月までは「平年並～低め」、5月以降は「平年並～高め」で、概ね経過した。黒潮流路の変動に伴い2月下旬および4月下旬には伊豆諸島北部から暖水波及により一時的に「高め」となった。6月上旬には黒潮内側反流に伴い駿河湾へ比較的強勢な暖水が波及し、上・中旬を中心に「高め」となり平年差2℃以上を観測した。7～8月は猛暑の影響もあり表層を中心に高水温となり、特に7月上旬には駿河湾奥で、下旬には県下全域、さらに8月上旬には駿河湾で高水温が顕著となった。9月以降も黒潮流路の変動に伴う暖水波及がみられ、9月、11月には平年差2℃以上となる高水温を数日観測した。一方、沿岸湧昇の影響で7月中旬には相模湾側で「やや低め」となり、8月中・下旬には伊豆半島沿岸から沖合、および伊豆半島西岸域に低水温が分布した。10月上旬には御前崎沖～石廊崎沖で低水温が分布し50m深で平年差4℃以下の低水温を観測し、さらに12月下旬後半には寒気の影響を受け沿岸水温は低め傾向となった。

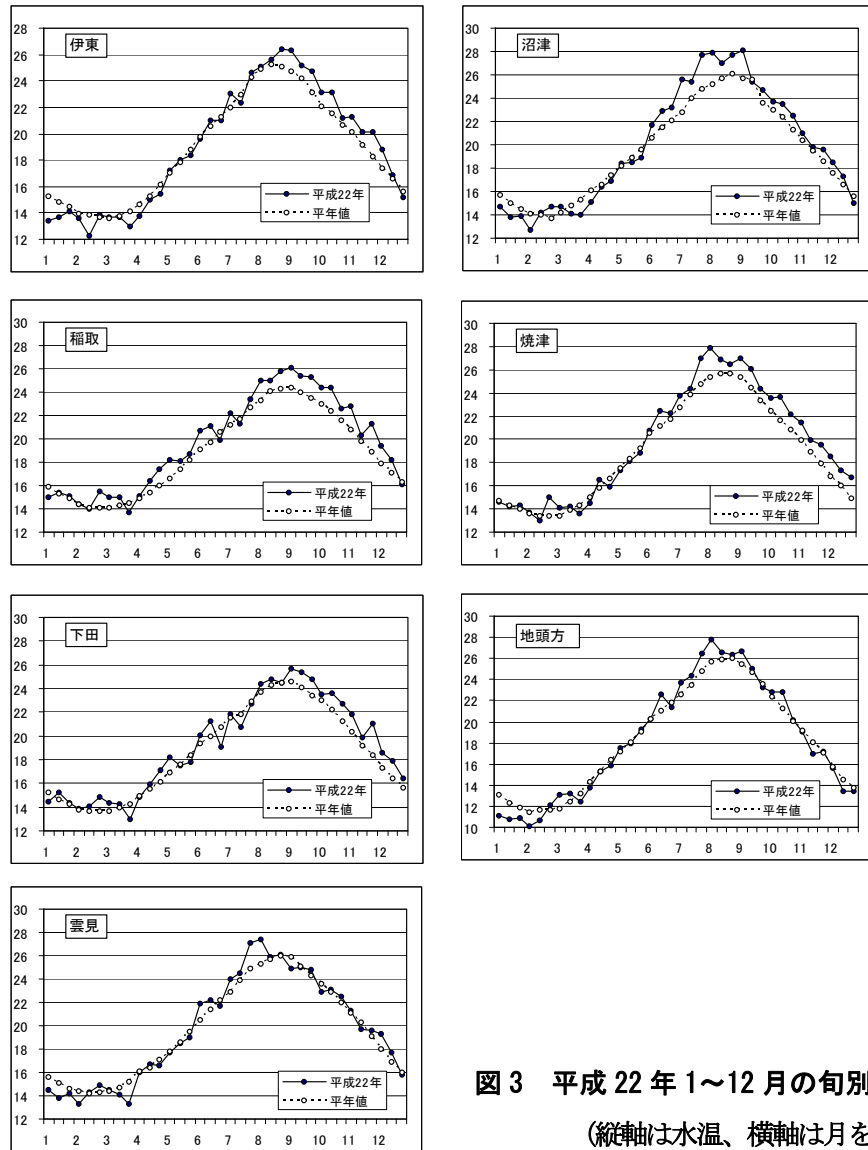


図3 平成22年1～12月の旬別沿岸水温の変化
(縦軸は水温、横軸は月を示す)

【サバたもすくい棒受網】

1 たもすくい

伊豆諸島海域におけるたもすくい漁は、1月10日から三本漁場でゴマサバを対象として始まり、マサバの操業は、2月16日から暖水波及により表面水温が18℃に上昇したひょうたん瀬で始まった。2月下旬の冷水塊の東進により、ひょうたん瀬の水温は徐々に低下し漁況も次第に低調となった。14℃台となった3月中旬までの1日1隻あたり水揚量は、マサバが2～10トン、ゴマサバ2～3トンであった。3月の黒潮流路は徐々に接岸傾向が強まり、中旬には三宅島付近が黒潮前線域に入る一方ひょうたん瀬は概ね冷水に覆われ、マサバ漁場は三本漁場を含む三宅島周辺海域に移り4月中旬まで継続した。三宅島周辺海域における1日1隻あたり水揚量は、マサバ1～14トン、ゴマサバ2～10トンであった。4月下旬には、マサバ漁場は18～19℃台に昇温した大室出しへ移り、1日1隻あたり水揚量はマサバ2～20トン、ゴマサバ1～10トンと好転したが、5月下旬の強い暖水波及によりマサバ漁場は消滅した。6月以降はマサバの漁場形成は見られず、下旬まで同海域でゴマサバ対象の操業が行われた。本漁期の特徴として、前年に引き続き三宅島周辺海域にマサバ漁場が形成されたことが挙げられる。これは、マサバ産卵群の増加による産卵場の拡大を表している可能性も考えられた。

マサバは尾叉長31～40cmの群が漁獲の主体となり、モードは34cmに見られた。4～5月には30cm未満の小型魚も漁獲されモードは26cmに見られた(図1)。推定した年齢別漁獲尾数によれば、卓越年級群である2004年級群に次ぐ豊度とされる3歳魚^{*1}(2007年級群)が漁獲の主体となった。また、1歳魚(2009年級群)の割合は、近年では平成17年(2005年)、平成20年(2008年)に次いで多かった。

ゴマサバは尾叉長24～35cmの群が漁獲の主体となり、モードは31cmついで27cmに見られた(図1)。推定した年齢別漁獲尾数によれば、近年の平均を上回る加入水準とされる3歳魚(2007年級群)、加入水準が高いとされる1歳魚(2009年級群)が漁獲の主体となり、加入水準が低いとされる2歳魚(2008年級群)も比較的まとまって漁獲された。

平成22年1～6月の千葉県・神奈川県・静岡県主要7港^{*2}におけるたもすくい水揚量は、マサバが891トンで前年(983トン)の91%、ゴマサバが902トンで前年(1,257トン)の72%であった。マサバ水揚量が前年を下回った理由として、マサバ3歳魚の来遊水準は前年並であったものの海象等により出漁日数が伸びなかったこと、5月下旬の暖水波及によりマサバ漁場比較的早く消滅したことが考えられた。ゴマサバ水揚量が前年を下回った理由として、出漁日数が伸びなかったことに加えマサバに漁獲努力が傾注されたこと等が考えられた。

*1 年齢は1月に加齢し、平成22年(2010年)時のものを示した。

*2 千倉・富浦(千葉県)、三崎・長井(神奈川県)、伊東・沼津・小川(静岡県)の7港。

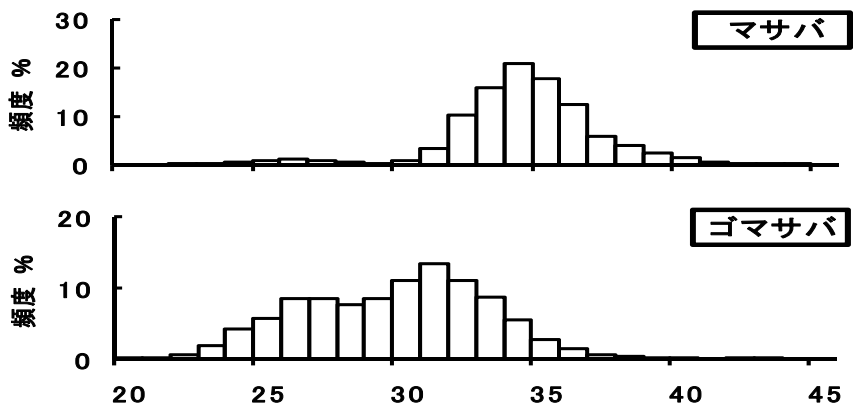


図4 平成22年1～6月のたもすくいによるマサバ尾叉長組成(上)とゴマサバ尾叉長組成(下)

2 棒受網

伊豆諸島海域における棒受網漁は、1月12日から始まった。県内棒受網船は、ほぼ年を通じて三本、三宅など三宅島周辺海域でゴマサバ主体の操業を行ったが、6月上旬、7月中旬～8月上旬には利島にも出漁した。マサバ狙いのたもすくいへの転換は、2月中旬の1日のみであった。平成22年の静岡県主要4港*3における棒受網(一部たもすくいも含み、以下同じ。)の1日1隻あたりゴマサバ水揚量は22.3トンで、前年(20.0トン)の112%、平成19年(25.5トン)の87%であった。経月変化をみると、1～6月は16.6トンであったが、7～12月は30.4トンと高水準になった。

漁獲されたゴマサバの7～12月(1～6月はたもすくいとはほぼ同じ)の尾叉長範囲は20～40cmであり、7～11月の体長組成は26～27cmにモードを持つ単峰で経過したが、12月には30cm以上の個体の割合が増加し、27cm、29cmモードの2峰となった。年齢査定、年齢別漁獲尾数によれば、1歳魚(2009年級群)が漁獲の主体となり、7～11月を通じた漁獲尾数割合は88%であったが、2歳魚(2008年級群)以上は2%に満たなかった。0歳魚(2010年級群)の漁獲尾数割合は11月に20%を超え、7～11月を通じた割合は10%となり、前々年0歳魚(2008年級群)の3%を上回ったが、前年0歳魚(2009年級群)の56%を下回った。

主要4港*3における棒受網の水揚量は、マサバが474トンで前年(693トン)の68%、ゴマサバが12,128トンで前年(8,841トン)の137%であった。ゴマサバ水揚量が前年を上回った理由として、3歳魚(2007年級群)、1歳魚(2009年級群)の来遊水準が高かったこと等が考えられた。マサバ水揚量が前年を下回った理由として、ゴマサバ3歳魚により1～6月におけるゴマサバ魚価が比較的堅調(表1)であったこと等が考えられた。

*3 伊東、静浦、沼津、小川の4港。

3 小川港におけるサバ類単価

小川港における棒受網(一部たもすくいも含む)のサバ類月別単価は、マサバが126～359円/kg(1～7月)、ゴマサバが36～79円/kgであった。水揚の主体となったゴマサバについては、8～12月には50円/kgを下回って推移した。この理由として、夏以降、小型魚(1歳魚)が主体となったこと等が考えられた。

表2 小川港(焼津市)における棒受網・たもすくいのサバ類月別単価(円/kg)

年	魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成18年(2006)	マサバ	—	—	64	118	61	—	—	—	—	—	72	56
	ゴマサバ	52	48	53	68	43	60	62	40	38	49	49	41
平成19年(2007)	マサバ	129	236	185	156	124	140	184	—	—	—	—	—
	ゴマサバ	50	53	51	71	72	57	74	60	58	63	80	95
平成20年(2008)	マサバ	—	315	489	315	173	—	—	—	—	—	—	—
	ゴマサバ	98	96	92	83	78	90	72	61	51	48	56	58
平成21年(2009)	マサバ	—	486	405	169	108	—	—	—	—	—	—	—
	ゴマサバ	53	75	56	56	56	56	54	50	38	36	36	37
平成22年(2010)	マサバ	359	249	260	126	231	253	204	—	—	—	—	—
	ゴマサバ	71	61	79	63	63	66	57	42	36	39	37	39

[サクラエビ船曳網]

春漁は4月18日夜～6月10日夜にかけて操業が行われた。出漁日数は15日、漁獲量は640トンで、漁場は主に富士川から榛原沖に形成された(前年の出漁日数は17日、漁獲量は859トン)。漁獲されたサクラエビは、平均体長35.5mmの当歳エビ(前年は33.7mm)と平均体長41.1mmの1歳エビ(前年は41.2mm)の2群で構成された。

秋漁は11月4日夜～12月19日夜にかけて操業が行われた。出漁日数は10日、漁獲量は303トンで、漁場は主に焼津から大井川沖に形成された(前年の出漁日数は11日、漁獲量は446トン)。漁獲されたサクラエビは、平均体長31.9mmの当歳エビ(前年は32.0mm)と平均体長40.8mmの1歳エビ(前年は40.3mm)で、当歳エビが主体であった。

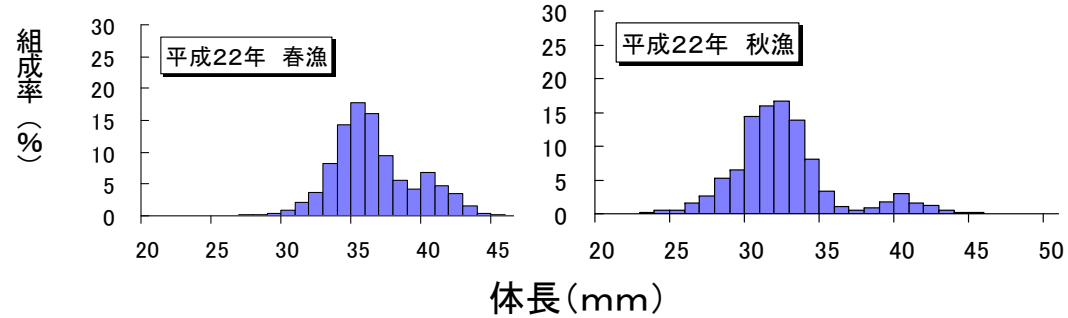


図5 平成22年春・秋漁のサクラエビ体長組成

[竿釣近海カツオ]

- ・水揚量と魚価

静岡県主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海・沿岸竿釣り船の水揚量は、1,492トンで平成21年の2,171トンを下回り、過去5か年平均(1,865トン)の80%であった。魚価は429円/kgで平成21年の438円/kgを下回った。
- ・漁況(漁場形成と魚体)

近海竿釣り船のQRY、御前崎港での市場調査による小笠原と伊豆諸島周辺の漁況はおおむね下記のとおり推移した。

- 1 月 小笠原諸島海域でカツオを漁獲し、1月27日に水揚げされたカツオは42cm、55cm、66cmにモードがあった。
- 2 月 小笠原諸島周辺で小(尾叉長44cmモード)、中(尾叉長56cmモード)、大・特大(尾叉長65cmモード)カツオを漁獲した。
- 3 月 小笠原諸島周辺で特大(尾叉長68cmモード)、特特大(尾叉長75cmモード)、大・中(尾叉長58cmモード)、小・極小(尾叉長44cmモード)カツオを漁獲した。
- 4 月 29°～34°N、136°～140°Eで小・極小(尾叉長43cmモード)カツオを主体に漁獲した。
- 5 月 29°～34°N、135°～140°Eで極小・小(尾叉長42cmモード)カツオを主体に漁獲した。
- 6 月 31°～34°N、138°45'～141°30'Eの鳥島から三宅島にかけて小・極小(尾叉長43cmモード)、中、大カツオを漁獲した。
- 7 月 33°～34°N、138°30'～139°30'Eの八丈島から神津島周辺にかけて小・極小(尾叉長44cmモード)を主体に中、大、特大カツオを漁獲した。また、大島周辺ではマメジ(クロマグロ幼魚)も漁獲された。
- 8 月 31°50'～34°10'N、138°50'～139°50'Eの神津島からハロースにかけて、小(尾叉長46cmモード)、極小(41cmモード)、特大・大(65cmモード)カツオを漁獲した。
- 9 月 32°N、140°E付近のスミス、ハロース等で、小(尾叉長43cm、46cmモード、極小(尾叉長38cmモード)中、チンカツオを漁獲した。
- 10月 32°N、140°E付近のハロース等で操業した模様。10月18日には小(尾叉長45cmモード)、極小、特大(尾叉長68cmモード)カツオを水揚げした。
- 11月 32°N、140°E付近のハロースで極小・小(尾叉長40cmモード)、熊野灘で中(尾叉長54cmモード)カツオを漁獲した。
- 12月 31°N、139°E付近の海徳場と松生場で、極小・チン(尾叉長38cmモード)カツオを漁獲した。

表3 平成22年近海釣り船のカツオ水揚量等 (県内主要5港)

年月	水揚量(トン)	水揚隻数	水揚/隻(トン)	平均単価(円/kg)	主漁場と魚体(体長cm)
22年1月	39	5	7.8	649	小笠原諸島周辺(42, 55, 66cm)
2月	151	15	10.1	412	小笠原諸島周辺(44, 56, 65cm)
3月	218	19	11.5	441	小笠原諸島周辺(44, 58, 68, 75m)
4月	219	49	4.5	468	伊豆諸島周辺(43cm)
5月	271	62	4.4	493	伊豆諸島周辺(42cm)
6月	144	39	3.7	387	鳥島、三宅島(43cm)
7月	154	76	2.0	459	八丈島、青ヶ島(44cm)
8月	115	54	2.1	336	神津島、ハロース(41, 46, 65cm)
9月	83	30	2.8	347	スミス、ハロース(38, 43, 46cm)
10月	63	24	2.6	244	ハロース(45, 68cm)
11月	30	18	1.7	357	ハロース、熊野灘(40, 54cm)
12月	5	3	1.7	212	海徳場、松生場(38cm)
22年計	1,492	394	3.8	429	
21年計	2,171	536	4.1	438	
5か年平均	1,865	446	4.2	411	*平成17～21年

【まき網】

1 マイワシ

本年の静浦漁港における総水揚量は76.7トンで、前年(25.0トン)の3.1倍、平年(過去5か年平均:13.8トン)の5.6倍であった。主漁期は6～7月で、総水揚量の96%を占めた。

沼津港における総水揚量は1,624.1トンで、前年(2,379.4トン)の68%に対し、平年(過去5か年平均:720.5トン)の2.3倍であった。主漁期は2～4月で、総水揚量の68%を占めた。

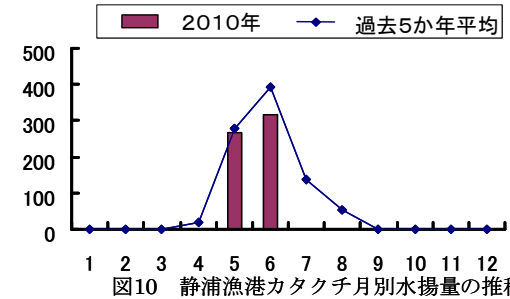
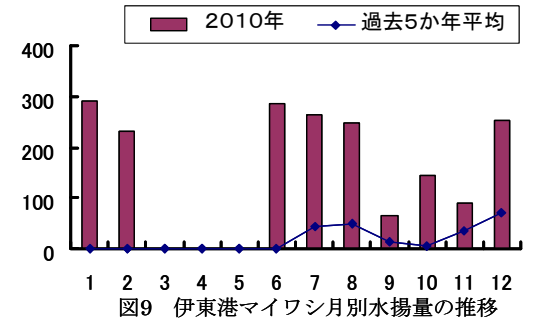
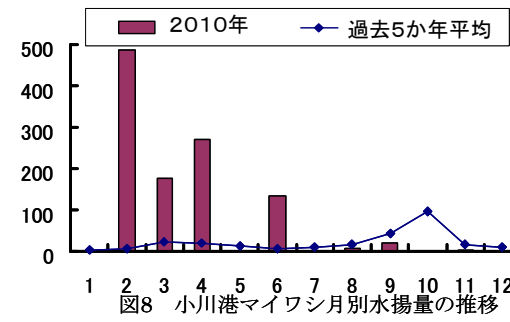
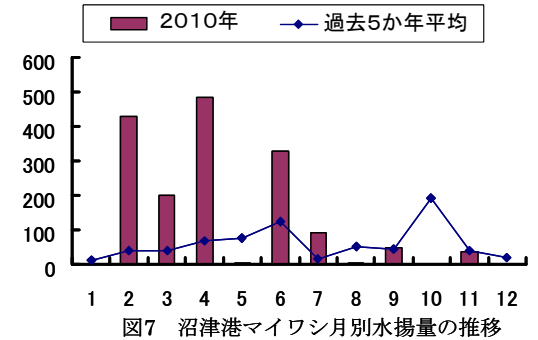
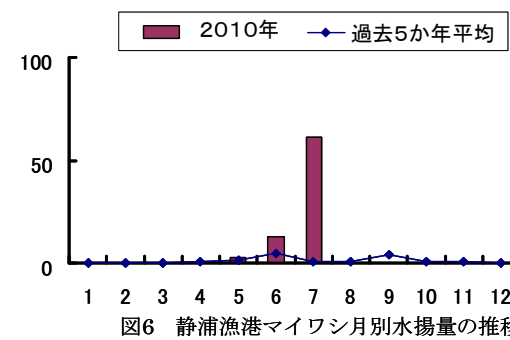
小川港における総水揚量は1,096.2トンで、前年(704.6トン)の1.6倍、平年(265.2トン)の4.1倍と好調であった。主漁期は2～4月で、総水揚量の85%を占めた。

伊東港における総水揚量は1,873.6トンで、前年(958.0トン)の2.0倍、平年(217.1トン)の8.6倍と好調であった。1～2月、6～8月、12月に230～290トンの水揚げがあった。この6ヶ月で総水揚量の84%を占めており、他の水揚地に比べ水揚げ状況が異なった

2 カタクチイワシ

静浦漁港における総水揚量は583.3トンで、前年(355.1トン)の1.6倍、平年(878.3トン)の66%と、前年を上回ったが平年を下回った。5～6月だけ水揚げがあり、6月は総水揚量の54%であった。

注) 平年:過去5か年平均



(注) 図6～10の縦軸は水揚量(トン)、横軸は水揚月

【シラス船曳網】

シラス漁は3月21日から始まった。3～12月の主要6港（静岡、吉田、御前崎、遠州、舞阪、新居）における総水揚量は6,403トンで、前年（6,387トン）の100%、平年（6,976トン）の92%と、平年を下回ったが前年並みであった。総水揚金額は3,880,634千円で、前年（3,899,676千円）の100%、平年（4,261,321千円）の91%と、平年を下回ったが前年並みであった。平均単価は606円/kgと前年（611円/kg）の99%、平年（613円/kg）の99%だった。

1日1か統当りの水揚量の推移を月別にみると、3月は82kg（駿河湾33kg、遠州灘171kg）、4月は122kg（駿河湾105kg、遠州灘143kg）といずれも平年（3月：215kg、4月：355kg）を大きく下回った。5月に入ると遠州灘で好転したものの駿河湾では低調で推移し、遠州灘が駿河湾より良い状況が7月まで続いた。5月は416kg（駿河湾199kg、遠州灘487kg）と平年（536kg）を下回り、6月は318kg（駿河湾151kg、遠州灘377kg）と平年（562kg）を下回った。7月は237kg（駿河湾194kg、遠州灘257kg）と平年（383kg）を下回った。8月は中旬になり駿河湾でも好転したものの、月全体では345kg（駿河湾397kg、遠州灘318kg）と平年（446kg）を下回った。9月になると上旬565kg、中旬723kg、下旬508kgと駿河湾、遠州灘とも400kgを超える好漁となり、12月まで平年を上回る状況が続いた。9月全体では599kg（駿河湾686kg、遠州灘558kg）で平年（383kg）を上回り、10月は430kg（駿河湾430kg、遠州灘430kg）で平年（290kg）を上回った。その後、11月は197kg（駿河湾161kg、遠州灘218kg）で平年（128kg）を上回り、12月も267kg（駿河湾200kg、遠州灘340kg）で、平年（91kg）を上回った。

水揚量の推移を月別にみると、3月は14トンで平年同期（144トン）の10%、4月は114トンで平年同期（808トン）の14%と平年同期を大きく下回り、4月は昭和60年以降の最低を記録した。5月は1,053トンで平年同期（1,363トン）の77%、6月は793トンで平年同期（1,281トン）の62%、7月は570トンで平年同期（780トン）の73%と、5～7月まで平年同期を下回った。8月は858トンで、平年同期（876トン）の98%と平年並みとなった。9月は1,557トンで平年同期（843トン）の1.8倍、10月は887トンで平年同期（643トン）の1.4倍、11月には337トンで平年同期（174トン）の1.9倍、12月には220トンで、平年同期（64トン）の3.4倍と、9～12月まで平年同期を上回った。特に12月は好漁で平成3年以来の200トン越えを記録した。

平均単価を月別にみると、漁況が低調であった3～7月までと好転した8月は平年並みから高めであったが、9月以降は平年を下回り、年平均では平年並みであった。

今漁期の特徴としては、3月の解禁以降低調な漁況であり、遠州灘では5月に入り好転したものの駿河湾では8月上旬までは低調な漁況が継続したこと、さらに両海域とも8月中旬以降12月まで好調に推移したことがあげられる。春漁が低調であった要因として、解禁前に黒潮が灘岸傾向であり、シラスの補給が少なかったことが考えられる。5月の遠州灘での漁況の好転は遠州灘沖の黒潮からの暖水の広がりが要因と考えられる。駿河湾内では黒潮系暖水の湾内への波及とともに、好転するのが常であるが、4月～7月の間の3回の黒潮系暖水波及時には漁況に大きな変化はなかった。8月中旬以降の漁況好転は4～7月の稚仔発生量が多かったことも一因と見られる。

注) 平年：過去5か年平均

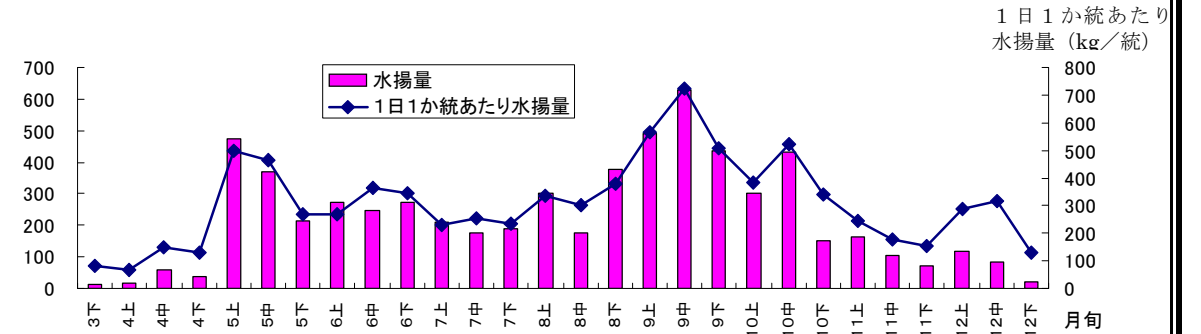


図11 平成22年主要6港旬別シラス水揚量と1日1か統当たり水揚量の推移

【定置網】

伊豆半島東岸大型定置網8か統（伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津）の漁獲量は5,209トンで、前年漁獲量4,632トンの112%、平年漁獲量（昭和57年～平成21年平均）3,891トンの134%であった。月別にみると、最も多かったのは6月の800トンで、前年最も多かった12月も731トンと2番目に多く、ともに昭和57年以降の漁獲量として最多となった。また、最も少なかったのは9月の192トンで、前年最も漁獲量が少なかった7月は3番目に多く635トンで、昭和57年以降の漁獲量として2番目に多く漁獲された。魚種（銘柄）別漁獲量の上位10種は以下の通りであった。

- 1 サバ類（さばっこを除く）：1,603トン（前年の97%、平年の177%）
- 2 カタクチイワシ：898トン（前年の141%、平年の265%）
- 3 マルソウダ：854トン（前年の877%、平年の430%）
- 4 マアジ（じんだを除く）：315トン（前年の59%、平年の45%）
- 5 スルメイカ：290トン（前年の67%、平年の180%）
- 6 銘柄いなだ：202トン（前年の425%、平年の802%）
- 7 銘柄わらさ：161トン（前年の109%、平年の263%）
- 8 マイワシ：152トン（前年の102%、平年の41%）
- 9 銘柄ぶり：139トン（前年の329%、平年の257%）
- 10 アカカマス：63トン（前年の936%、平年の317%）

サバ類（さばっこを除く）は、年間を通じてゴマサバが主体で、1～3月は前年または平年を上回ったが、漁獲盛期となる5～6月は前年及び平年を下回り低調であった。7月には386トンと昭和57年以降で最も多く漁獲され、8月も前年及び平年を上回り好調であったが、9～10月には前年及び平年を下回り、11月には多かった前年を下回ったものの平年を上回り、12月には472トンと昭和57年以降で最も多く漁獲された。年間漁獲量は前年の97%、平年の177%で、昭和57年以降で3番目に多く漁獲された。マサバは1～11月に平年を下回り、漁獲盛期である5～6月も平年の1割以下に止まり、12月のみ前年及び平年を上回ったが、年間漁獲量は21トンで、前年の22%、平年の33%と大きく下回った。また、漁獲されたサバ類のサイズは、1～2月はゴマサバの尾叉長のモードは33～34cmに見られ、3月はモードが22cmとなり、4月にはモード10cmとサバッコ銘柄の当歳魚が中心となり、5月は37cm、6月は32cm、7～9月には28～29cmにモードがみられ、7月には18～19cmの当歳魚と思われるモードも見られた。10月以降は30～31cmにモードが見られ、12月にはマサバも30cmと32cmにモードが見られた。

カタクチイワシは、1～6月には平年を上回り、1月には204トンと昭和57年以降で2番目に多く漁

獲され、2月にも210トンと昭和57年以降で3番目に多く漁獲された。7月以降は漁獲が激減し、近年多く漁獲された12月も前年及び平年を大きく下回ったが、年間漁獲量は前年及び平年を上回り、昭和57年以降で3番目に多く漁獲された。

マルソウダは5月に183トンと昭和57年以降で3番目に多く、6月には511トンと昭和57年以降で最も多く漁獲され、尾叉長のモードは33~34cmであった。10~11月にも前年及び平年を上回り、年間漁獲量は昭和57年以降で最も多く漁獲された。

マアジは、1月は前年及び平年を上回ったものの、2月以降はすべての月で平年を下回り、年間漁獲量も前年及び平年を下回った。当歳魚のじんだ銘柄は1~5月にも若干の漁獲があったが、まとまった漁獲があったのは6月と7月のみで、年間でも6.5トンと前年及び平年を下回った。漁獲サイズは、1~2月及び4月の尾叉長のモード20cmの1歳魚中心で、3月は28cmに2~3歳魚と思われるモードがみられた。5~6月にはモード22cmの1歳魚中心に漁獲されたが、7月にはじんだ銘柄のモード12cmの当歳魚が中心となり、8月には14cm、9月には16cm、10~11月は19cmと成長しながら漁獲された。12月にはこのモード19cmの当歳魚の他にモード27cmの1~2歳魚もみられたが、当歳魚のまとまった漁獲はみられなかった。

スルメイカは3月に64トン、9月に6.5トンと昭和57年以降で最も多く漁獲されたのを始め1~4月と8~9月に好調で、年間漁獲量は昭和57年以降で最も多かった前年を下回ったものの平年を上回った。

ブリは、銘柄ぶりの漁獲量は139トン(20,364尾)で前年及び平年を上回った。2月に7,696本、3月に5,139本入網し、7月には5,505本と昭和57年以降で最も多く漁獲され、魚体は3歳魚(2007年級群)主体であった。また、銘柄わらさが5月に64トン、6月に84トン入網し、昭和57年以降で最も多く漁獲され、年間漁獲量も161トンと前年及び平年を上回り、昭和57年以降で2番目に多く漁獲された。銘柄いなだの漁獲量は7月に144トンと昭和57年以降で最も多く漁獲され、年間漁獲量も202トンと前年及び平年を上回り、昭和57年以降で最も多く漁獲された。2010年級群である銘柄わかしの漁獲量は漁獲盛期である8~10月に前年及び平年を大きく下回り、年間漁獲量も11トンと前年及び平年を大きく下回った。

マイワシは5月と12月に平年を上回り、年間漁獲量は152トンと前年並で平年を下回った。アカカマスは11月に39トンと昭和57年以降で最も多く、年間漁獲量も63トンと昭和57年以降で最も多く漁獲された。

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/imode/index.htm>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAによる海面の水温分布画像を見ることができます。

